

研究タイトル：印刷技術普及にみる情報波及の変容  
—19世紀初頭に注目して



氏名： 山口 裕美 / YAMAGUCHI, Yumi E-mail: yamaguty@tsuyama-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(学術)

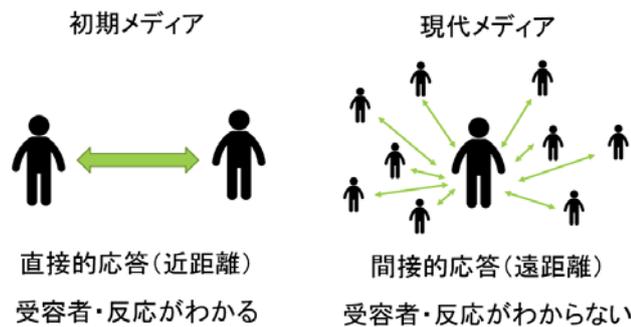
所属学会・協会： 日本英文学会・イギリスロマン派学会・英米文化学会など

キーワード： イギリス文学・ロマン主義・メディア論

技術相談  
提供可能技術：  
・ロマン主義文学と印刷物  
・「語り」の歴史  
・メディアからの情報の読み取り方  
・印刷物から読み取れる歴史的背景

研究内容：

一般に「メディア」とは、新聞やテレビ、インターネットなどの「情報伝達の媒体」という狭義で用いられることが多い。しかしながら、そもそも、人間の姿かたちや声などが情報伝達的手段として存在していることから、マーシャル・マクルーハンの定義による「メディアとはメッセージ」であり「人間の拡張」とする思想は本質をついている。声による情報伝達は、さまざまな進化を遂げる。口頭伝承による物語、文字、演劇などから現代メディアにいたるまでの変遷は多種多様ではあるが、基本的には個別の情報交換から不特定多数への情報交換可能なものへと移行する。



グーテンベルクの活版印刷から紙媒体による「メディア」の萌芽は見られた。しかし作者から読者への一方的な供給が基本であり、読者が作者へ影響を与えることはありえなかった。しかしながら、19世紀前後の印刷技術の急速な発達により、作者と読者の関係は明らかに変容した。18世紀ごろから英国の経済が成長し、ビラや切符、ポスター、カタログなどの印刷物への依存が加速した。また同時に識字が経済活動に参加する上で重要な意味をなしたために、識字率が飛躍的に上昇した。その上昇に伴って、読者の印刷物への要求が高まる中で、産業革命により、紙の製造や印刷機の植字に機械が導入され、印刷の高速化が進んだ。「メディア」のあり方の変化により、読者反応が作家本人に伝わることで、作家は読者を意識した執筆活動を行うようになる。19世紀は、印刷という「メディア」によって、作者と読者が直接的に影響を与えあうという呼応関係が作品中に明らかに認められる時代の黎明であった。

従来、文学にみる読者受容の問題といえば、「作品(作家)」が読者に与える影響のみに留まっていることが多かった。しかしながら、作家の残した手紙や日記を射程に入れると、どれほど読者の視線を意識して執筆していたのかわかる。特に発行部数の多い作家は、読者を意図的に誘導する執筆もおこなっているようである。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	